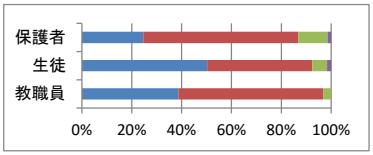
令和2年度　自己評価書・学校関係者評価書

■そう思う　■どちらかといえば,そう思う　■どちらかといえば、そう思わない　■そう思わない　■無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

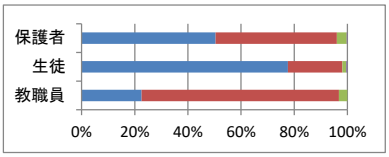
1　一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていると思いますか。



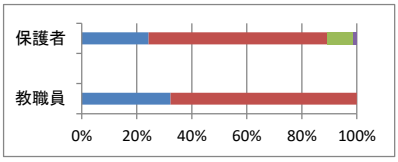
2　友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。



3　道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重，思いやりなど）

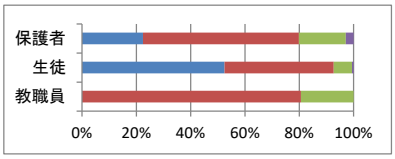


豊かな心を育む教育の推進については、教職員と生徒の評価が３つの項目も昨年度よりそれぞれ３ポイントほど高くなった。学校が一人一人に寄り添った指導や対応への取り組みや、道徳教育の充実を柱にして取り組んできたことが、教職員や生徒にとっては実感を持って成果と感じあえている状況だと思われる。今後は、学校での取り組みやその成果を、学校便りや学級通信、学校ホームページ等、様々な手段や場面を捉えて伝えていく等、保護者への発信をさらに推進したい。

②確かな学力を育む教育の推進

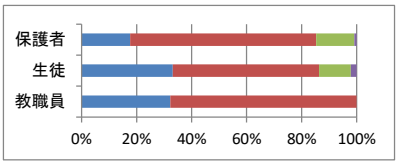
4　意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



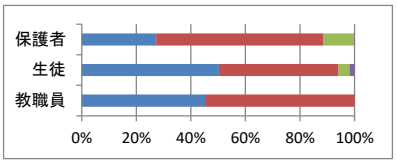
5　授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



6　ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

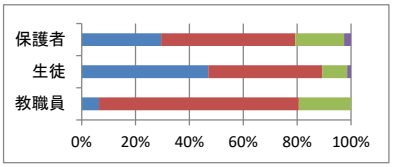


確かな学力を育む教育の推進については、昨年度に比べて、教職員、生徒、保護者の評価がすべて５ポイントほど向上している。この項目については、タブレット端末の一人一台導入など、学校のＩＣＴ環境が大きく変わった１年であった。この機会をとらえて今後も教職員でさらなる活用の仕方について研修と実践に取り組んでいきたい。また、そのことを柱にしながらこれまでの授業改善、教職員の指導力の向上に取り組みを継続し、生徒が意欲的に学習に取り組むことができるように努めていきたい。

③健やかな体を育む教育の推進

7　健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

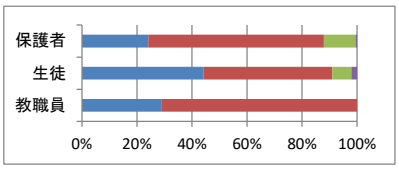


例年、この項目の教職員、生徒、保護者共に評価が低くなっている。今年度は昨年度に比べると教職員の評価は１０ポイントも向上している。教職員は課題意識を持ってこの項目に取り組むことができたと捉えているので、健康づくりについては今後も課題意識を持って学校全体で取り組んでいきたい。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

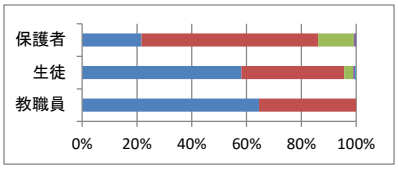
8　児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



9　いじめや問題への対応

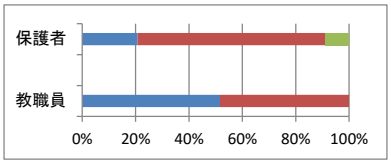
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



②特別支援教育の推進

10　学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

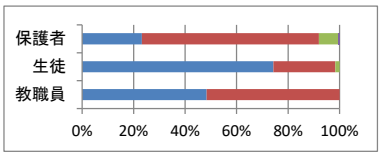


８の「児童生徒理解」９の「いじめや問題への対応」については、保護者と生徒の評価が、それぞれ３ポイントほど向上している。昨年度に比べると教職員の評価と生徒や保護者の評価の差がずいぶん小さくなった。生徒理解やいじめへの対応はなによりも日頃の信頼関づくりが大切なので、今後も日頃の生徒との関わりや家庭との連携に継続して取り組んでいきたい。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

11　安全と事故防止

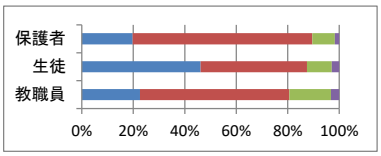
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



②最適な学習環境の整備

12　施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

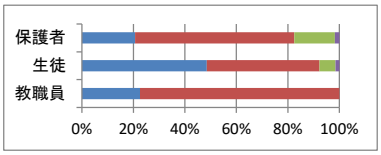


子どもたちの安全対策や学習環境整備については、生徒や保護者かの評価が５ポイントほど向上している。学校の日常的な安全点検や、毎月の「学校安全の日」を中心とした全職員での校舎・施設の安全点検などの取り組みが成果となって、生徒や保護者の安心感につながったものと考える。

③家庭・地域社会との連携強化

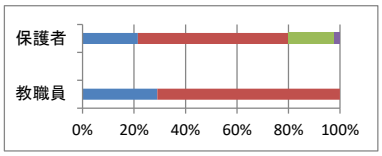
13　教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14　家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

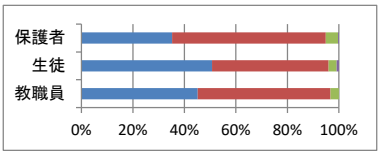


家庭・地域社会との連携強化については、昨年度に比べて教職員が７ポイント、生徒と保護者の評価が３ポイント向上している。まだ、教職員と生徒・保護者の間で評価に差が見られるので、今後も「教育方針・目標の理解」については、学校便りやホームページでの広報に努めていきたい。「家庭や地域との連携協力」については、学校が地域や家庭から協力をいただくことだけでなく、地域社会へ学校が貢献する取組をさらに推進していきたい。

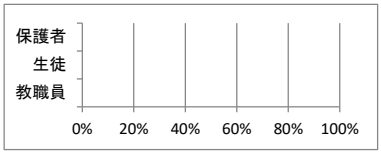
⑧本校の教育

15　基本的な生活習慣の定着

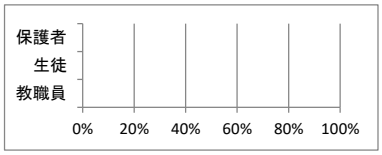
先生方は、基本的な生活習慣（あいさつ、そうじ、服装、時間を守る）の定着を図る取り組みを進めていると思いますか。



16



17



この項目は一昨年度より掲げたものであるが、昨年度に比べて保護者、生徒、教職員共にさらに高い評価となった。三者の評価にも大きな差がなく、学校が取り組んできたことが、生徒や保護者にもしっかりと伝わり、その成果も実感することができていると思われる。今後も学校の取り組みに柱としてさらに取り組みを継続していきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

〇学校の教育目標や教育方針、具体的な取組については、さらにわかりやすく、学校便り、学級通信、学校ホームページなどあらゆる機会を通して情報発信を行う。
〇タブレット一人一台の導入を契機として、生徒の学習意欲の向上や授業改善への取り組みを継続して、一人一人の個別最適化された学習をめざして取り組んでいく。
〇不登校状況の生徒への支援やいじめの未然防止と早期対応、改善に学校の職員だけではなく、スクールカウンセラー、ＳＳＷと連携しながら生徒一人一人の自己実現をめざして学校全体で取り組みを継続していく。
〇安全、食育、総合・教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。
〇新型コロナウイルス感染予防のために、マスクの着用、３密を避けること、手洗いなどを意識しながら新しい生活習慣の徹底を図ることなどに継続して取り組んでいく。また、心身共に健康な生活を送れるようにより一層の工夫に努めたい。
〇全国標準学力調査（NRT調査）を受けて、生徒の学力を分析し、きめ細かな指導の工夫改善に努めたい。

学校関係者評価

〇不登校やいじめ等の課題を職員が一丸となって解決に向われていることを知りうれしく思う。地域としてもできることを協力したい。
〇生徒たちの登下校の様子を見ていると、とても生徒が落ち着いているようにうかがえる。マスクをきちんと着用しており、あいさつもしっかりとできている。